

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

| | | | | |
|-------------|--------------|------|-------------------|-------------------|
| 活性化計画名 | 霧島市霧島地区活性化計画 | | | |
| 計画主体名 | 計画主体コード | 計画番号 | 計画期間 | 実施期間 |
| 霧島市 | 4 6 2 1 8 7 | 1 | 平成21年度～ 平成25年度 | 平成21年度～ 平成22年度 |
| 活性化計画の区域 | | | | |
| 鹿児島県霧島市霧島地区 | | | | |

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

| 事業活用活性化計画目標 | 目標値A | 実績値B | 達成率 (%) B/A | 備 考 |
|------------------------|-------------|------------|----------------|-----|
| 交流人口の増加 | % 15.92 | % 11.48 | % 72.11 | |
| 地域産物の販売額の増加 (黒豚・堆肥) | % 131.62 | % 76.88 | % 58.41 | |
| 地域産物の販売量の増加 (黒豚) | % 113.10 | % 80.61 | % 71.27 | |
| 地域産物の販売量の増加 (堆肥) | % 87.21 | % -4.37 | % -5.01 | |

(コメント)

・交流人口の増加についての推移を見ますと計画前5ヵ年の実績に対しては伸びておりますが、計画期間5ヵ年の計画に対して50万人ほど不足しております。要因としましては平成22年の口蹄疫の発生、その後、新燃岳の噴火による入山規制などの影響があり観光客等の入込み客数の減少があったと思われま

す。
・地域産物の販売については、施設整備の段階で一部工事の遅れなどが生じた事もあり実際の稼働計画に対しての子豚の導入が安定せず販売量を確保できていない状況であったようです。副産物の堆肥販売も堆肥の品質は向上しましたが、全生産量が販売までに至っていない状況があります。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

| 事業メニュー名 | 事業内容及び事業量 | | 事業実施主体 |
|--|--|--------|------------------|
| 「高生産性農業用機械施設」 | 肥育舎（木造平屋建スレート屋根3棟421.2㎡×3棟＝1,263.6㎡）、子豚舎（木造平屋建スレート屋根1棟259.2㎡）、分娩豚舎（木造平屋建スレート屋根1棟272.16㎡）、交配・妊娠豚舎1棟（木造平屋建スレート屋根1棟387.0㎡）管理棟（木造平屋建1棟70.2㎡）農機具庫（木造平屋建1棟48.0㎡） | | 農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場 |
| 管理主体 | 事業着工年度 | 事業竣工年度 | 供用開始日 |
| 農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年3月25日 |
| 事業の効果 | | | |
| <p>本事業により施設整備を行ったことで畜舎周辺の環境整備が整いました。その結果、生産効率の向上と飼育する豚へのストレスが軽減され、肉質向上の成果がありました。地域産物としての黒豚肉の販売についてはブランドの確立へ繋がっている事と思います。</p> | | | |

| 事業メニュー名 | 事業内容及び事業量 | | 事業実施主体 |
|---|--|--------|------------------|
| 「リサイクル施設」 | 堆肥処理施設 1機 発酵槽容積 41㎡ 処理能力 1日/4.5t | | 農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場 |
| 管理主体 | 事業着工年度 | 事業竣工年度 | 供用開始日 |
| 農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年3月25日 |
| 事業の効果 | | | |
| <p>強制醗酵を行う事で堆肥の処理能力も上がり、高温醗酵によってアンモニア臭のしないサラサラとした完熟堆肥の生産が来ています。</p> | | | |

3 総合評価

| |
|--|
| <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業に取り組んだことで、かごしまブランドである「かごしま黒豚」の生産性向 |
|--|

上が図られ、販売量、販売額の増加と農業経営の安定、地域の活性化に繋がっていくものと思われ一定の成果が得られたと思います。

・交流人口の増加については、法定伝染病の発生や自然災害の影響を受けたものの総体的に見ますと計画年後半には以前の水準以上の実績が出てきており計画目標に向けて今後も取り組んで行きたいと思います。

・地域産物の販売量・販売額の増加で、黒豚肉の販売については概ね達成できていますが、堆肥については良質な製品が出来ても全てが販売に繋がらなかった事が課題となりました。販売できなかった製品は、無償譲渡の方法をとって農地へ還元していますが、今後は地域の農家と連携し堆肥利用の促進と販売に繋がるよう計画目標に向けて取り組んで行きたいと思います。

4 第三者の意見

(コメント)

本施設は、安心安全な黒豚の安定供給とブランド確立のため、一貫生産施設と資源循環施設として堆肥処理施設を整備し、地区内の飲食店や物産館、宿泊施設での利用促進により観光客等の入込の増加を図ることを目的に整備されたものである。

計画目標の達成状況をみると、交流人口、販売額とも未達成である。

交流人口の増加については、口蹄疫や大雨災害による県道2号線の国分霧島間の通行止めが長引いたこと、また新燃岳噴火による立入規制等の影響が大きいと思われ、これらを考慮すると交流人口の増加目標は十分達成出来たものとする。

黒豚の販売量については、目標値に対して71.27%という結果であります。計画前5カ年の実績は上回っており一定の効果はあったものとする。

堆肥の生産量については、目標値に対して-5.01%という結果であり、現状を考えると今後においても目標達成はかなり厳しいものがあるとする。

黒豚・堆肥の合わせた販売額については、目標値に対して58.41%という結果であり、計画前5カ年の実績は上回っており一定の効果はあったものとする。

評価内容について概ね妥当であるとするが、今後目標達成できなかった要因について具体的に改善の取組みをされ目標が達成されることを期待します。

(鹿児島県霧島市霧島 栢野地区自治公民館長；川野 茂樹)

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果（農山漁村の活性化に関連する効果）を幅広く記入すること。